

工程表「見やすさ」3原則

NG/OK比較5パターン・大判印刷対応・完全版プレビュー

1. 色分けの統一

工程種別で色を固定。4色以内。同じ色を別の意味に使わない。

2. クリティカルパスの強調

遅延すれば全体が遅れる工程は赤太枠 + 。CPでない工程はライトグレーで沈める。

3. 余白の確保

行間18pt以上。ガント領域とラベルを明確に区切る。罫線は薄グレーで圧迫感を排除。

推奨配色（4色固定）

設計

施工

検査

引渡

CP

比較 1: 色の使い分け

NG例

7色8色とカラフルで意味不明。設計が黄色、施工が緑、検査も緑など重複。

OK例

4色固定。設計=青/施工=橙/検査=緑/引渡=紫。凡例を必ず表に併記。

比較 2: クリティカルパス

NG例

すべて同じ太さのバー。どこが命綱か一目でわからない。

OK例

CPバーを赤枠+太線、ラベルに 。CPでない工程はライトグレーで沈める。

NG例

行間6ptで詰めて文字とバーが重なる。読みづらく印刷で潰れる。

OK例

行間18pt以上。ガント列幅は固定。ヘッダ・凡例とは1行空ける。

NG例

日付ラベルだけで週/月の区切りなし。「今ここ」線がない。

OK例

週は薄塗り、月は太い罫線で区切る。今日列に黄色の縦バー。

NG例

バーに数字だけ。完了/遅延がパッと見でわからない。

OK例

進捗率に応じて塗りつぶし(白 緑)、遅延は赤斜線パターン。